

氏名	内田 正子 UCHIDA Masako
所属 職名	人間文化創成科学研究科文化科学系 教授
学位	英文学修士(1973 東京大学)
専門分野	英文学、特に小説を中心とする散文研究と18－19世紀イギリス研究
URL	
E-mail	uchida.masako@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

イギリス文学
19世紀
ディケンズ

English Literature
the Nineteenth Century
Charles Dickens

主要業績

研究内容 / Research Pursuits

Victoria朝はどのような特質の集積によって形成されるのか、18世紀半ばごろのRomanticismの始まりから1830年代までのいろいろな局面を取り上げて考察している。今年はまだこれまでなかなか取り上げられなかったByronの著作を集中的に読むことができ、彼がフランス革命に強い関心を持っていること、しかし、革命を大きな社会的運動ではなく、人目に立つ幾人かの個人の活動として認識していることが分かった。このことは、CarlyleのThe French Revolutionとのつながりと断絶とを同時に示している。

What Qualities the Victorian Age is made of?
This question cannot be answered without
studying various phases of Romanticism from the
middle of the 18th century to 1830s. This year I
took up Byron and discovered that he is very
much interested in the Fr

■ 教育内容 / Educational Pursuits

博士課程前期の演習では、近年あまり読まれることのない Byron, Childe Harold's Pilgrimage??を取り上げ、典型的ロマン派とみなされがちな Byron にその後の Victoria 朝につながる特質の有無を考察した。英米文学演習上級では、作者の同時代に対する批評がもっとも先鋭な形で表明された、George Eliot の最後の長編小説 Daniel Deronda を精読した。英語圏テキスト講読?では、専門の英文読解への橋渡しとして、Oscar Wilde の批評作品を講読。LA ジェンダー演習では、多くのホラー映画や小説の母胎となってきた Mary Shelley, Frankenstein を読解した。ほかに卒論作成のための特別演習およびコア英語3科目を担当した。

In the Master's seminar, read Byron's Childe Harold's Pilgrimage, and discussed the possible Victorian qualities observable in this quintessentially Romantic poet, conspicuously left unread these days. In the LA gender seminar, read the novel written by

■ 研究計画

■ メッセージ